



おおきに

ニュースレターVol. 21
2009.12 発行
NPO法人
スペシャルオリンピックス日本・京都
〒604-8083
京都市中京区三条通柳馬場東入中之町2
京都YMCA内<3F>
TEL 075-211-1574 FAX 075-211-1590
HP <http://www.son-kyoto.com>
E-mail miyake3-2@nifty.com

"Let me win but if I cannot win Let me be brave In the attempt"

「私に勝たせてください。もし勝てないとしても頑張る勇気を持たせてください」

一年を振り返って

副理事長 岡本尚男

昨年は4月にNPO法人として認可され、今年にはNPO法人としては実質的にスタートした1年でした。日常的に現場を支えてくださる各プログラムコーチの皆様から心からの感謝を捧げます。また、各委員会の委員長や委員の皆様が責任をもって職責を全うし、黒子役に徹したお働きには頭が下がります。



また、多くの団体やボランティアの方々のご奉仕やご支援はありがたいことでした。ありがとうございました。お陰さまで、SO発足当時から考えますと、知的発達障害者に対する、一般社会の理解も進んでまいりました。その意味ではSOに対する今後の取り組みへの期待も増えるものと思います。

今期、毎月定例で開催しております運営会議の在り方を是正する提案がだされ、緩やかに改革が進みだしました。ともすればプログラムの内容から外れた、広報やイベントについての協議、年間計画推進の方策などに時間が割かれていました。しかし、本来は各プログラムからの報告とあわせて、アスリートへの対応に齟齬をきたしていないかも考慮に入れなければならないわけです。そのためには、各プログラムのヘッドコーチを中心とした横断的な意見や改善点などが、運営会議に提案されなければなりません。

その為にもアスリートと常に対面しているスポーツプログラム委員会からの具体的な報告や提案を中心にした、運営会議の進行を心がけてきました。決して惰性に流れない、毅然とした運営が大切です。それはNPO法人として支援して下さる団体やボランティアの方々、会員として支えて下さる皆様にとって、社会的なステイタスとして地域の中で一際輝くような「NPO法人 SON・京都」でなければならないからです。

今年は、教育的配慮から快く体育館を使用させていただいている京都市立御池中学校で、落書が発見される事件が起こりました。複数の他団体も使用していることから、必ずしも私達の関係者が関与したとの確証もありませんが、お貸しいただいている好意を踏みにじることは許せるものではないと思い、全ての利用施設に対して私たちが責任をもってお借りし、お返しする第一歩として、施設の「施設使用点検表」を完成させました。

全施設の「使用前、使用後の点検」の徹底と責任者の責任を明確にするものです。改善するところは改善しながら、お貸しいただいている皆様のご好意に報いることは、「NPO法人 SON・京都」の評価を高め、社会的責任を果たす当然の義務であります。併せて「アスリートに仕える」使命を担っていることの自覚を、改めて関係者に促す出来事でもありました。

次年度も、より多くの方々のご支援をお願いし、アスリートやボランティアの増員、新しい拠点の模索を皆さんで考えて参りたいものです。

SON東京創立15周年記念バスケットボール競技会

SON京都バスケットボールコーチ

小嶋 志穂

9月20～22日に東京・代々木、国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された、SON東京創立15周年記念バスケットボール競技会に男子シニアチームとして、参加してきました。東京開催でアウェーではありましたが、松川さん親子が応援にかけつけてくれたので、本当に心強かったです。

2年前、初めてチームとして大会に参加した時は、大会の様子も掴めず、雰囲気にも圧倒されている間に、金メダルを持って帰ってきました。

今回は、2度目の大会参加で、少し気持ちに余裕をもって臨めたように思います。3日間の競技会を通して、チームにはまとまりができました。試合中は誰も諦めることなく、必死でボールを追いかけて、自分にできること、自分がやるべきことを一生懸命できていたと思います。途中から本当に本当によく頑張っているアスリート達に『頑張れ!』と声をかけることを躊躇する程でした。それほど、よく頑張っていました。大きな怪我をしなかったことにほっとしています。

結果は、3チームの総当たりで1敗1分の銅メダルでした。メダルの色は金から銅になりましたが、メダル以上にアスリートの成長を感じることができた大会でした。ただ、アスリートにとっては決して納得できる大会ではなく、悔しい大会であったと思います。京都は成長していましたが、他地区もやはり成長し、競技会のレベルは上がってきています。今回の悔しい気持ちを忘れずに、でも、できたことには自信をもって、限られた練習に集中して取り組むことで更に上を目指していきたいと思っています。今後とも応援宜しくお願い致します。



SON京都地区大会ボウリング競技会

ボウリングプログラムコーチ 野田 泰伸

2009年10月4日、ボウリングプログラム京都地区大会が開催されました。

河原町ROUND 1にアスリートが次々と集まってきました。受付を済ませ、準備万端、グループ分けされたレーンには緊張感が漂い、いつもの練習風景とは違ったアスリートの顔が見うけられました。

青木ヘッドコーチの開会宣言、原野コーチの司会で始まりしました。岡本副会長の来賓挨拶のあと4名のアスリートの宣誓、来賓の始球式でいよいよゲームがスタートしました。

次々とアスリートが投球を始めました。綿密にディビジョニングされたものの、アメリカン方式のレーンとヨーロピアン方式のレーンに分かれての投球でした。多少の戸惑いはあったものの、サポーターの指導で順調にゲームが進みました。

あちこちで歓声があがり跳びはねて喜ぶ姿も見うけられました。日頃一生懸命練習に励むアスリートがこのような大会に望む精悍な姿を見ると嬉しくなり、感動を覚えずにはいられませんでした。

私はスコア集計を担当しましたが、手計算のためファミリーの方にお手伝いいただき、無事ディビジョニングごとの順位決定に至ることができました。ありがとうございました。

全てのゲームが終了し、各ディビジョニングごとの表彰では金、銀、銅、メダル、そして参加賞のリボンが次々とアスリートの首に掛けられ、ファミリーやコーチの皆さんと喜び合う姿をあちらこちらで見ました。

最後になりますが、アスリート達のレーンサポーターとして、ファミリーをはじめライオンズクラブやワイズメンズクラブからもお手伝いいただきありがとうございました。

このスペシャルオリンピックスの活動がもっと広がり、感動の輪が大きくなることを期待します。これからも長男、和弘と共に楽しく活動したいと思います。



2009第六回 鴨川チャリティートーチウォーク

SON京都・スポーツプログラム委員長
森田 隆信

恒例となっていますトーチウォークも6回目を迎え、今年は11月23日（祝・月）に開催しました。最初は2005年に長野で開催されました冬季世界大会・長野を期に2004年から全国で繰り広げられ、それをきっかけにスペシャルオリンピックス（SO）の活動も全国的に広がり、現在では日本全国47都道府県で展開されています。しかし残念ながらまだまだSOの認知度が低いのも現状です。

京都においては在京の各種団体のみなさんの協力のもと毎年の恒例行事として定着しつつあるトーチウォークです。今年も北山橋での点火式では荒巻禎一実行委員長、千容子理事長の挨拶の後、アスリート代表による宣誓を力強く行いトーチを先頭に鴨川東岸と西岸に2隊に分かれてゴール地点の御池中学校までの約5.5kmをアスリートと共に歩いて、SOの活動を市民のみなさんにアピールしました。各中継ポイントでは各プログラムのアスリート、ファミリーそして協力していただいています団体のみなさんとの交流も有り、いよいよトーチが着いた時には聖火の引き継ぎをみんなで盛り上げました。引き続き次のポイントまでは団体のみなさんの後押しでアスリートたちが交代でトーチを掲げて鴨川の河川敷を歩きました。緊張するもの、楽しそうなもの、恥ずかしそうなもの、誇らしげに歩くものなどアスリートの個性は色々です。

私たちスペシャルオリンピックスの活動はアスリートたちが主役です。チャリティートーチウォークと同じようにみなさまの後押し、支え、そしてなによりもアスリートたちに対して一步引くのではなく「心のバリアフリー」の気持ちを持って接していただくことがSOの活動を支える力になります。今後とも応援よろしくお願いたします。



SON・大阪地区大会水泳競技会

水泳ヘッドコーチ 寺井 洋一



来年、大阪でスペシャルオリンピックス日本大会が開催されます。このプレ大会が11月22日に同じ会場で開催されました。水泳競技には京都から9人のアスリートが参加しました。今回初めてスペシャルの競技会に参加するアスリートが6人もいて来年の出場に向けて良い経験ができたと思います。競技の時は緊張していたアスリートたちも表彰式ではメダルをもらってにっこりとVサインをしていました。



アスリートの皆さんお疲れ様でした。ボランティアの方々は朝早いにもかかわらずご協力いただきまして感謝しております。競技会でお世話になった皆様、ありがとうございました。

競技会の結果は以下のとおりです。

競技会の結果概要

2010年第5回スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・大阪プレ大会

1. 日時：2009年11月22日(日) 午前9時～午後1時
2. 会場：大阪市舞洲障害者スポーツセンター(アミティ舞洲)プール
3. 参加者：アスリート 9名(林、柵木、美野、菅原、古井、鈴木、小林、辻、奥野)、
コーチ 6名(寺井、寺井、丸橋、西村、北村、森田)、
ファミリー 5名(林、柵木、美野、菅原、古井)
4. 競技成績：1位金メダル 4人、2位銀メダル 4人、3位銅メダル 5人、4位リボン 2人、
5位リボン 2人、6位リボン 1人、(1人2種目に出場)リレー 4位リボン
5. 主催：スペシャルオリンピックス日本・大阪

SON・大阪地区大会ボウリング競技会

原野 良子

11月22日(日)新大阪駅イーグルボウルにて「2009SON大阪ボウリング競技大会」が開催されました。折りしも、錦秋真っ只中の京都。午前10時、観光客で賑わう京都駅に紫色のユニフォーム姿のアスリート達が集まりました。午後1時からの受付という事でゆったりとしたスケジュールの中、皆で座って行けるよう各駅停車に乗り込み、旅行気分を満喫しつつのスタートとなりました。そして、新大阪駅到着。ファミリーをふくめた大所帯での昼食の後、現地集合組と合流しました。

今大会は大阪・京都・奈良・和歌山・滋賀・兵庫の6地区が集結、京都からは10名のアスリートが参加しました。いつもと違うレーン風景に大勢のギャラリー。練習プログラムでは味わえない緊張した雰囲気の中、皆が持てる力で競技に臨みました。表彰台に立ったアスリートの頼もしかった事、晴れやかな笑顔が印象に残る大会でした。そして、コーチは勿論、アスリート各々が今後への課題・目標が持てる実りのある一日でした。



熊本地区大会 報告

私たちバレーボールプログラムは11月14、15日に行われた「SON・熊本地区大会」に参加してきました。

14日は熊本観光で熊本城と水前寺公園を案内していただき、夜には食事会で中村勝子さんのお話を聞かせていただきました。そこではコーチやファミリーのSOに関わるきっかけ、思いを語り合い、あらためてSOの活動のすばらしさを再認識しました。



15日はバレーボール競技を実施している熊本と大分とのリーグ戦を実施しました。結果は2戦2敗で、多くのアスリートはがっくり肩を落したり、泣いたりしていました。

以前だと勝ち負けにこだわらないアスリートが多かったのですが、「悔しい」という思いをもつアスリートが増えたことには驚かされました。きっと、この悔しさは新たな目標に向かってがんばるパワーにつながっていくと思います。今後は一人一人のアスリートが新たな目標を持って日々のプログラムに取り組んでくれると思います。そして来年のナショナルゲームでは悔しい涙ではなく、歓喜の涙にかえてくれると思います！！

バレーボールプログラム・ヘッドコーチ
城 裕幸

	熊本	大分	京都		
熊本	/	○(2-0)	○(2-0)	2勝0敗	1位
大分	●(0-2)	/	○(2-0)	1勝1敗	2位
京都	●(0-2)	●(0-2)	/	0勝2敗	3位

2010年第5回スペシャルオリンピックス日本 夏季ナショナルゲーム・大阪大会要項

競技会名称 2010年第5回スペシャルオリンピックス日本 夏季ナショナルゲーム・大阪

主催 認定特定非営利活動法人 スペシャルオリンピックス日本

主管 特定非営利活動法人 スペシャルオリンピックス日本・大阪

運営主体 2010年第5回スペシャルオリンピックス日本 夏季ナショナルゲーム・大阪
実行委員会

開催期日 2010年11月5日(金)～11月7日(日)

会場 水泳/大阪市舞洲障害者スポーツセンター、フライングディスク/陸上競技/万博記念競技場
バレー・バスケットボール/なみはやドーム、ボウリング/イーグルボウル
サッカー/大阪市長居第2陸上競技場、ゴルフ/茨木カントリー倶楽部
体操競技/大阪府立障害者交流促進センター、卓球/舞洲アリーナ・メインアリーナ
テニス/シーサイドテニスガーデン舞洲、バドミントン/舞洲アリーナ・サブアリーナ

役員 大会会長：有森裕子（認定NPO法人 スペシャルオリンピックス日本 理事長）
組織委員長：安藤忠雄
実行委員長：馬場桂一郎
(認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本・大阪 理事長)

近畿ブロック認定コーチ研修会の報告

SON・京都スポーツプログラム委員長
森田 隆信

12月12日（土）に認定コーチのための研修会を開催しました。参加者は近畿ブロックの大阪、兵庫、奈良、滋賀そして京都の5地区から43名が集まりました。認定コーチとしてスペシャルオリンピックスで活動されている方々へのフォローアップを目的とした研修会です。今回の内容は次の通りです。

場所： ウィングス京都 13:00～17:00

内容： 「プログラムの安全」 山本英史ナショナルトレーナー（SON・熊本）
「デビジョニング」 齊藤佳英ナショナルトレーナー（SON・大阪）

4時間という限られた時間でしたがSOのコーチにとっては活動に直結する内容でもあり充実した研修でした。今回使用しましたチェックシートをみなさんも参考にしてください。



司会の森田委員長



山本英史トレーナー



斎藤佳英トレーナー

スペシャルオリンピックス プログラム評価項目

評価項目	チェックポイント	チェック
練習会場側の担当者との打ち合わせ	使用できる練習場所や使用時間の確認が行われているか	
当日のプログラム前のミーティングの有無	コーチに当日の練習内容を伝え、共通理解が図られているか	
アスリートの状態の把握と目標設定が行われているか	メディカルチェックをもとにアスリートの短期目標が設定されているか	
アスリートの受け入れ態勢と健康観察	アスリートの快く出迎え、当日の心身の健康状態を把握する	
チーフコーチがプログラムのめあてを設定しているか	当日の中心練習内容を設定し、能力別の練習内容を決定する	
コーチは実施される練習内容を把握しているか	チーフコーチの計画した内容をもとに、各グループの練習内容を計画する	
コーチの人数構成	各グループを何人のコーチが担当するかをグルーピングされている	
当該競技の専門知識を持つコーチの有無	練習内容や指導内容へのアドバイスが行われているか	
グループ分けは適正に行われているか	アスリートの能力に応じたグループ分けが行われているか	
コーチの服装・用具の準備	当該競技に適した服装、安全を保たれる用具を使用しているか	
アスリートの服装・用具の準備	当該競技に適した服装、安全を保たれる用具を使用しているか	
練習会場の安全確認の有無	トイレ、水道、非難経路、その他危険箇所は確認されているか	
ボランティアの会場監視者の有無	会場への出入り口を監視し、アスリートの逃避、不信人物の出入りを防ぐ	
開始のあいさつがあったか	練習開始の合図が送られたか	
準備運動は適正に行われているか	それぞれの能力のアスリートに対して適正な運動量が確保されたか	
遅刻者への対応	遅刻してきたアスリートへの用具の準備、準備運動などが行われたか	
練習会場は有効に利用されているか	使用できる練習会場と用具を有効に利用していたか	
アスリートの運動量は適当か	練習中に休んでいるアスリートがなく、適当な運動が行われたか	
アスリートがプログラムの内容を理解しているか	アスリートが何を練習しているかを理解し、プログラムに取り組んでいるか	
適切な指導・支援が行われているか	アスリートの能力に応じた支援・手立て（コーチング）が行われているか	
適当な休憩時間が設定されているか	練習時間内に水分補給、体を休めるための休憩時間が設定されているか	
整理運動が適正に行われているか	運動に使用した体の部位をほぐす整理運動が行われたか	
プログラムのめあての達成の確認は行われたか	プログラムのめあての達成について確認する、練習した内容を確認する	
終了のあいさつがあったか	練習終了の合図が送られたか	
練習時間は適当であったか	アスリートの健康・安全が保たれる練習時間であったか	
次のプログラムの連絡は行われたか	次のプログラムの日時、場所、内容の予告は行われたか	
プログラム後のアスリート、ファミリーとのコミュニケーションはとれたか	練習中の様子や健康状態について伝える	
アスリートの個人記録表は作成されているか	練習の様子を書き込む個人表が作られているか	
個人記録表に適切に記入されているか	できないことではなく、できることに着目して記述してあるか	
プログラム後のミーティングの有無	練習内容、会場の利用状況、アスリートの様子について共通理解を図る	